

自己評価及び外部評価票

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己 外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	事務所、玄関にクレドを掲示し意識づけを行い、入社時、年度初めに理念を読み合わせ、理念についての研修を行っている。 職員ひとりひとり理念が書かれたカードを携帯し理念を意識できるようにしている。	事務所、玄関に施設創設の共同理念(グループ共通)を掲げ職員への周知については、研修会の都度行われている。職員には理念の書かれたクレドカードが配布されて意識して業務に取り組めるよう配慮されている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	昨年度に引き続きコロナ禍のため行事、防災訓練への参加などはできていないが、回覧板を届けたり、コロナ感染者数が落ち着いている時はホームのまわりを散歩したりし地域とのつながりを持つようにしている。	コロナ禍でなかなか近隣との交流は出来ていないが、たまたま火災報知器の誤作動で緊急警報が流れたとき、近隣など大勢の人が集まってくれて日ごろの些細な付き合いが大切なことを実感したり安心した面もあった。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	直接的に地域の方々への情報発信はできていないのが現状であるが、運営推進会議等を通じて、認知症ケアについて施設での取り組みなどを報告している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、その意見をサービス向上に活かしている。	現在、運営推進会議は書面でおこなっている。インシデント、アクシデント報告などをおこない電話や手配り等で意見、要望を聴取し、得た意見等をホーム職員で会議をおこない他スタッフと共有している。	会議は持っていないが文書発信で意見を伺うよう努力している。電話、訪問で手渡ししたりしているが行政以外の意見収集は難しい。	努力している様子はうかがえる。 もし可能ならばズームによる会議、メールによる配信を考えてみることも考慮されたい。会議のまとめは同じ様式で、日付を入れるよう希望する。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議には高齢者活躍支援課や地域包括、区長さんと情報の交換をおこない、近隣住民の情報を戴き入居支援をしている。	運営推進会議には出席いただくようにしている。入居についてなど、行政とのやり取りは細かにしている。相談、指導をメールなどで行なっている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束防止委員会が中心となり、身体拘束を行う場合もご家族に説明し承諾を得ている。委員会も定期でおこない少しでも身体拘束の廃止・拘束時間の短縮などを検討している。	グループ全体の身体拘束防止委員会もあり、常に拘束しないケアについて検討をしている。基本、精神薬はできるだけ使わない。拘束ベルト、4点柵、センサーの検討。特に職員2人で対応の時は拘束はしない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	高齢者虐待防止委員会を設置し、定期委員会を開催している。動画や他ホームであった事例などをもとに検討を行っている。全体会議時に委員会より職員に報告し、虐待防止について周知徹底している。		

さわやか川中島第2ユニット

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	成年後見制度を利用している入居者もいるため、研修の中で具体例をあげ権利擁護について学ぶ機会を持っている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時、入居者及びご家族に分かりやすく説明することを心掛けている。また不安なく入居できるよう疑問点なども何うようにしている。また退去時も同様にわかりやす説明を心掛けている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	家族会等を行えていないが、意見や要望を書き入れられるポストを設置して対応している。直接面会できないときはLINEを使いビデオ通話をしたりしながら意見、要望、苦情等聞いたりし、サービスの向上に努めている。	現在半数以上の家族とLINEでやり取りができる状態である。動画配信などをして現状を見ていただく努力をしている。そんな中で現実味のある意見を聞くことができる。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	職員の意見や提案を取り入れ働きやすい環境づくりに配慮するため、半年に一度、個別面談の機会を設けている。また職員間の人間関係や仕事の対する不安などを相談しやすい関係作りに努めている。	個別面談で職員の思いや意見を聞いている。これをさらに上司につなげるシステムはできている。日ごろの要望などは相談しやすいよう関係づくりに努めていることがうかがえる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	代表者が定期的に現場の状況を見ており、管理者及び職員の意見や要望を吸い上げている。環境・備品等の整備にも迅速に対応している。職員行事の際の福利厚生も充実しており、補助金の支給などがある。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者自ら勉強会を企画・開催し、職員全体のスキルアップの機会を設けている。外部研修への機会も与えている。OJTにおいても現場の主任、リーダー職員を中心に行なっている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	オレンジカフェのボランティア活動に参加したり、連携の集いに参加し、勉強会の機会確保や同業者間のネットワーク作りに努めている。		

自己 評価	外部 評価	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	コロナ禍であっても感染対策を講じた上で直接対面でご本人・ご家族と面談し、ホームの様子も見ていただき、今までの生活を継続し暮らせるように職員全員で情報共有し、関係作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	入居前に、家族と共にホームを見学して頂いたり、職員が自宅や利用施設を訪問し、話を伺い、安心して入居できるよう、何でも話せる関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	ケアマネ、サービス事業者、本人、家族から情報収集し、意見交換を行なう中で、検討を重ね、必要なサービスを見極め、的確な支援が行えるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	生活を共にするという姿勢を大切にし、出来ることはご本人にやってもらっている。一緒に日常作業をしてもらうことで、やりがいを感じて頂き、家族のような関係作りに努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	日々の生活の様子、体調の変化などを細やかに報告し、ご家族と一緒に今後のケアの方向性を考えたり、意見を聞く機会を設けている。ご家族の支援が必要な時は感染対策を行い、ご家族との時間を大切にしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	手紙・年賀状のやり取りをしたり、感染対策をしながら行きつけの美容院へ出かけたり、近所に住まわれていた方は散歩に出ることで馴染みの方との交流が出来るように支援している。	できるだけ散歩に出歩くようにしている。回覧板をもっていったりする途中、人に声をかけてもらったり、小学生が通学途上で声をかけてくれたり、朝市でお茶をいただいたり、気にかけてくれる人がいて楽しく交流している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	気の合う入居者と交流ができるよう、少人数で関わりが持てるよう工夫している。困っている方がいると、他の入居者様が職員を呼んでくれるなど入居者同士の支え合いがみられる。		

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	入院や転居後も家族や転居先の担当者の相談に応じている。また終末期で退去後、逝去された入居者の葬儀に行かせて頂き、ご家族と入居時の思い出話をする等グリーフケアの機会を持っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	入居者様の希望や思いを傾聴し、また言葉にできない方のしぐさ、表情からも思いを汲み取り気持ちに寄り添えるよう努めている。コロナ禍であってもご家族の支援が受けられるよう努めている。	毎週木曜日3時15分～45分間のカンファレンスをして職員が情報共有している。雑談の中からも利用者の意図を感じ取れることができ、ケアプランに生かすことができています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居者様一人ひとりの生活歴や今までの暮らし方をご本人・ご家族に伺い、情報を得ている。生活環境を整え、その方らしい生活ができるよう努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	残存機能の把握と確認をしながら、通常と違う心身の状態の変化に気づけるよう、気づきシートを活用し、カンファレンスを行い共有するようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	モニタリングを行い、入居者・ご家族の意向を聞き、新たな課題や検討が必要な時にはカンファレンスを開き、現状に即した支援が出来るようにしている。終末期の入居者の状況変化やケアの変更など細かく記録するようにしている。	把握しやすいモニタリングシートを使い、部屋担当とケアマネ、看護師が集まり特に日を決めないでも集まり協議している。パート職員も必要によって加わり、皆で作る介護計画の作成に努めている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケアプランの実施記録と、日々の様子や変化などケース記録に記載し、申し送りノートなどで共有している。本人の思いや言葉をそのまま記載し、その後のプランの見直しに活かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	病院への付き添い、外出の付き添い等ニーズに合わせて可能な限り支援やサービスの多様化に努めている。		

さわやか川中島第2ユニット

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	行きつけの美容院にいたり、地域の活動に参加することで友人や、知人に会い、近況を話したり、懐かしい話をするなどできるなどの機会を設けている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	協力医による訪問診療を月2回実施。歯科医による訪問診療も3か月に1回実施しており、状態把握をお願いしている。定期診療の他にも状態に応じ往診もしている。また症状によっては、専門医への受診もしている。	協力病院の医師が月2回往診している。又3か月に1度歯科医が入り、歯科衛生士が月1～2回来て口腔ケア指導をしてくれている。必要に応じて先生から家族に直接知らせてもらっている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	看護師とサービス提供記録にて情報を共有したり、処置板を活用し介護員に適切な指示をしている。看護師不在時も、緊急時や夜間も連絡がとれる体制がある。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は医療機関に情報提供を行い、本人や家族が安心して治療ができるよう支援している。医療機関から経過について情報提供を受けたり、退院に向け、医師、担当看護師に注意事項など聞き、関係作りを行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	入居の際に終末期についての話も行ない、本人や家族の考えを聞き、終末期を迎えた時には、状態について主治医も交えて家族と話をする機会を作っている。本人や家族の希望に沿う看取りが出来るように体制を整え支援している。	本人や家族の意向を尊重し、入所時、終末期と利用者の変化によっても、十分話し合い納得のいく看取りに心がけていることがよくわかる。利用者家族から感謝状もいただいている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	緊急時のマニュアル・フローチャートを作成し、社内研修で確認している。感染予防対策の委員会があり、マニュアル作成、物品等を管理し、応急処置、初期の対応ができるように看護師、委員が中心になり訓練を行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に災害訓練を行なっている。地域の方にも協力を要請したり、運営推進会議では災害時についての話し合いをしている。食料の備蓄、補充管理も定期的に行っている。	コロナ禍であり十分ではないが定期の訓練は行っている。水害時は垂直避難という消防署の指示である。食料の備蓄は3日分用意してある。	住宅も密集している地域なので、今後夜間の訓練、地域の人への応援を受けての訓練など様々な想定の下での訓練の企画を希望します。

自己	外部	項 目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として尊敬の念をもって接するようにしている。プライバシーに配慮し、トイレの入口がフロアから見えづらくなり、ホームページ等への入居者の写真掲載についても個人情報に配慮している。	トイレのプライバシー確保のためにいろいろ工夫しているが、トイレがカーテンでありトイレの入り口ドアが締めてないと見えてしまう可能性がある。尊厳をもって利用者に接する配慮は徹底されている。	できればカーテン以外の物で排泄行為のプライバシー保持に努められたい。
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	洋服を選んだり、お茶やお菓子を自分で選ぶ機会を作っている。また、散歩、買い物に行きたい等、希望がかなえられる様働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	1日のスケジュールはおおよそ決まっているが、一人ひとりの体調、希望に沿い、食事時間、メニューなど臨機応変に対応している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	鏡の前で髪をとかしたり、お化粧をしたり、髭を剃ったりと身だしなみを整えたり、行事の時や外出する時には、服のコーディネートに配慮している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	畑で作ったジャガイモや、ふきを使つての副菜作り、味噌汁を作ったり、梅を漬けたり、季節感を大事に食事の提供をしている。食事の盛り付け、お茶配り、お茶碗拭きなど一緒に行っている。	栽培が可能なものは近くの農園で作る支援をして、近隣のいただきもの、自前のジャガイモなどできるだけ地の物を使用している。手作りが中心だがチルド品も利用している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	一人ひとりの摂取量、水分量をチェック表にて管理し、その方にあつた盛り付け、形状で提供している。水分がなかなか摂れない利用者については、ゼリー状の物を提供するなど工夫している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	3か月に1回歯科医の訪問診療、月1～2回の歯科衛生士による口腔ケアを行い、歯科衛生士による指導を受け、職員間で情報を共有し、歯間ブラシ、スポンジブラシなどを使用し、口腔ケアしている。義歯を預かると不安になる方もいるため、時間を個別に決め、洗浄液につけ洗浄している。		

さわやか川中島第2ユニット

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	同じ時間に一斉に排泄介助を行わず、個々の排泄パターンを把握し、その方にあったパット使用やトイレ誘導を行っている。オムツを使用している方も排便コントロール時は介助でトイレに座りできるだけトイレでの排泄を目指している。	できるだけトイレで排泄できるよう誘導している。おむつの人でも1日に1回(意思表示のあったタイミングで)は便器に座ってもらうようにしている。リハパンから布パンになった人もいる。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	排泄パターンを把握し、食物繊維の多い食事提供を心掛け、水分補給、適度な運動、睡眠を整えながら個々に応じた対応処置を行っている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	入浴日は決めずに、声掛けを行い、良いタイミングで入浴できるようにしている。体調や、その方の希望に沿いながら入浴していただけるよう心掛けている。スライドボード、手すりを増やし設備の改善も行っている。	利用者の高齢化、レベル低下が進む中、一般浴対応が難しくなっており介護者の負担が増しているように見受けられる。スライドボードや手すりなどの増設も行っている。入浴は利用者の希望に沿って対応している。	入浴を楽しむのには風呂の設備が旧式であり介助が心配になる。利用者が安心して入浴を楽しむために今後改修に向けて検討を希望する。
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	就寝時間は一人一人違うため、就寝前の時間はテレビを見たり、お茶を飲みながらゆっくりと過ごしていただいている。日中もソファやご自分のお部屋で休息をとって頂いている。気持ちよく休んでいただけるように寝具や室温、照明に気を付けている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	薬に関する情報は個人ファイルに保管し服薬状況、症状の変化に関する情報を職員が共有できるように配慮している。服薬時は二重チェックをおこない飲み込むまでの確認をしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	役割として家事分担を行い、それぞれの得意分野で活躍できる場面を作っている。生活歴から入居者個々の趣味や関心事を交えながら張り合いが持て、喜びが持てるよう支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	コロナ禍でなかなか外出が思うようにできていないが、感染状況を見ながら散歩にでたり、人の少ない場所へお花見に行ったりしている。定期受診、美容院に行ったりと感染対策をしながら外出も行っている。	現在は冬でもあり、コロナ禍で出かけられるところも限られてしまいなかなか外出は難しい状況である。又花見ドライブなどを計画したい。床屋、美容院に連れて行ったり来てもらったりしている。	

さわやか川中島第2ユニット

自己	外部	項目	自己評価(事業所記入)	外部評価(評価機関記入)	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	ご家族から預かっているお小遣いは施設が管理しているが、ご家族の承諾を得て、入居者ご本人が欲しいものなどを購入している。職員と一緒に買い物に行き、お小遣いから自分で購入されている方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	ご自分の携帯電話を使用し、ご家族に電話している方や、ご家族、知人からの電話を取り次いだり、リモートで話をしたり誕生日の時などご家族からメッセージが届いたりする。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	落ち着いた明かりの照明、フロアで入居者が快適に過ごせるようにしている。コロナ感染対策で換気をしながらも温度、湿度、採光に配慮している。季節の花を飾ったり季節感を味わいながら、落ち着いた雰囲気の空間作りに取り組んでいる。	食堂兼フロアに椅子やソファを置いて、好きなところに腰かけて過ごしてもらっている。窓際がお気に入りの席になっている人もいて自由に過ごしている様子がわかる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	食事席以外にもソファでくつろげる空間作りをしたり、ベランダに椅子や机を置き、お茶を飲んだり日光浴したり思い思いに過ごしていただけるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	入居の際には自宅で使用していた家具、寝具など馴染みの物を持参していただくようお願いしている。お花やテレビを置くなど、居心地よく過ごせる工夫をしている。室温・湿度計を設置し室温や湿度を意識している。	好みで全く自由に生活できている。散らかしても本人次第。カーテンの開閉も自由気ままにしている。自分の好きな物を持ち込んで落ち着いて生活できている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	洗濯を干したり、洗濯物の様子を見にいったりできるよう物干しの高さを手の届きやすい高さに調節したり、植物を育てたり、車椅子の方でも好きな服をご自分で選び、着替えたりできるよう棚を作ったり工夫している。		